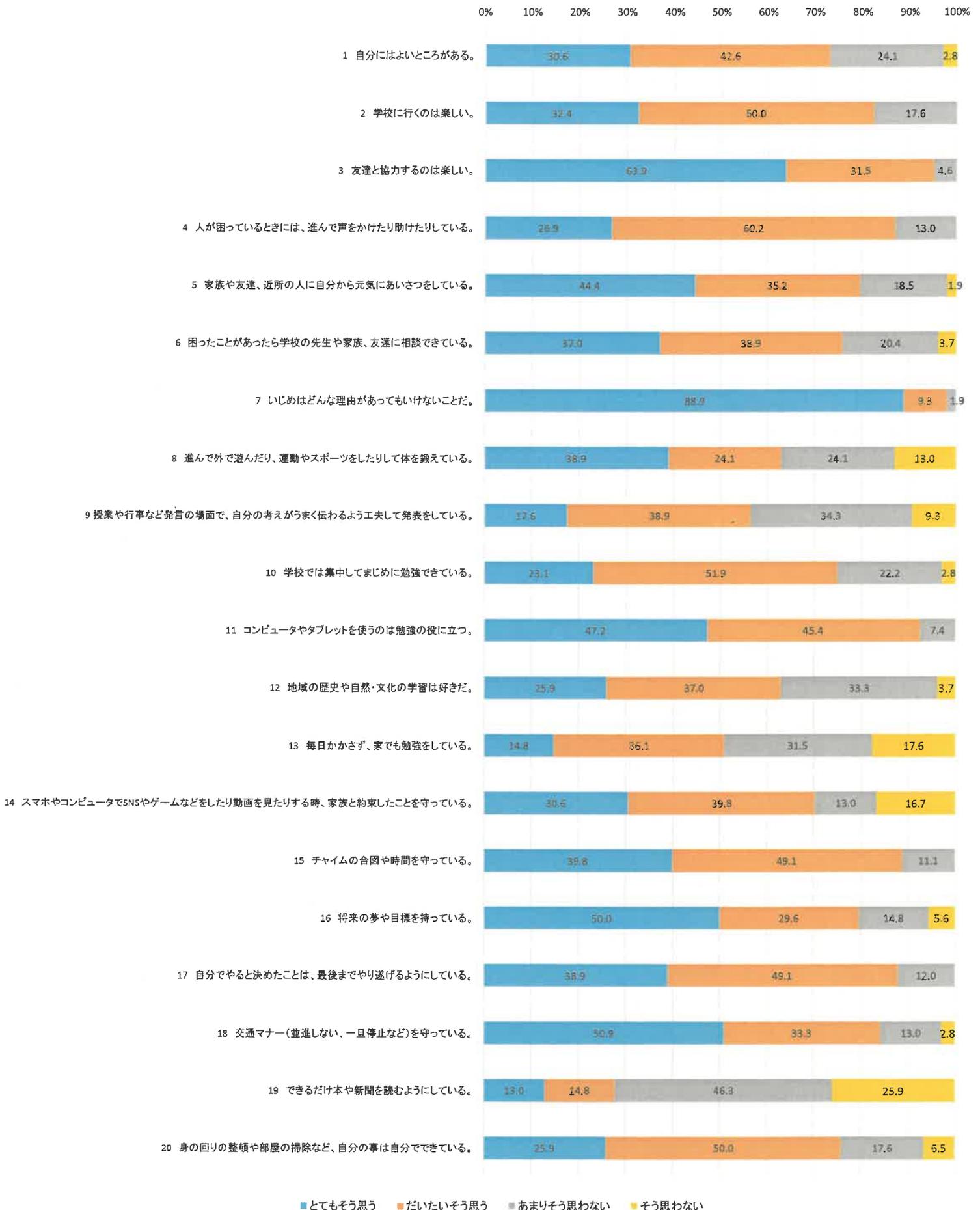


令和7年度 市立川島中学校 学校評価アンケート(生徒)



■とてもそう思う ■だいたいそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない

令和7年度 市立川島中学校 学校評価アンケート分析・考察(生徒)

1 はじめに

学校評価は、学校運営におけるPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを機能させるための基盤です。また、生徒一人ひとりの教育活動の「成果」を可視化し、潜在的な「課題」を早期に特定することで、エビデンスに基づいた学校経営と教育課程の最適化を推進することとなります。

市立川島中学校がめざす「みんなでつくる 人を大切にする川島中学校」の実現に向けた取り組みをさらに推進していきます。

2 アンケート結果の分析と考察

※肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合で分析・考察

2.1 学校生活

学校の楽しさ(項目2:82.4%)や相談しやすさ(項目6:75.9%)は、教職員や周囲の支援に対する安心感があることがうかがえます。

また、協力する楽しさ(項目3:95.4%)、助け合い(項目4:87.1%)では、友だちや周囲との関係が安定し、落ち着いた学校生活を送ることができています。

2.2 学習意欲

ICT活用の有用感(項目11:92.4%)は昨年度から7.6%向上しており、デジタルツールは既に生徒の学びに定着しています。しかし、授業への集中度(項目10:75%)、地域学習への関心(項目12:62.9%)は昨年度から低下しています。

さらに、家庭学習(項目13:50.9%)や読書習慣(項目19:27.8%)も低下傾向にあり、ICTという「学習を支える道具」がある一方で、知識を深く掘り下げる、あるいは粘り強く思考するといった「学習内容の充実と継続的な取り組み」が課題となっています。

2.3 規範意識

いじめに対して否定意識(項目7:98.2%)は揺るぎない「川島中の誇り」として維持されており、生徒の中に周囲を思いやる気持ちが日頃の行動から感じられます。

一方で、チャイム遵守(項目15:88.9%)、交通マナー(項目18:84.2%)、情報モラル(項目14:70.4%)は、昨年度から低下しています。これらは、社会的なルールの遵守に関わる項目であり、一人ひとりの意識は高まっているものの、集団としての課題が残っています。

3 課題解決に向けたアプローチ

3.1 相談体制の強化

定期的な教育相談の実施に加え、教職員以外のスクールカウンセラーとの接点を増やします。

また、「自分にはよいところがある」という自己肯定感を向上させるために、授業や行事での「発言の工夫(項目9)」や「最後までやり遂げる力(項目17)」について、失敗しても相談できる環境を、さらに強固なレジリエンス(回復力)へと転換します。

3.2 授業力の向上

タブレット端末の活用方法を再定義し、調べ学習や動画視聴や検索等だけではなく、プレゼンテーションや意見交換のツールとして活用する機会を増やし、デジタル上での表現や探究活動を深化させていきます。また、学習習慣の定着と読解力の向上を目的として、読書の時間を増やし、考える力や表現力の向上につなげていきます。

3.3 規範意識の定着

交通マナー(項目18)や時間励行(項目15)について、生徒会活動と連携した啓発運動を行い、生徒自身の力で規律をただせるようにします。また、SNS・ゲームに関する約束(項目14)の遵守を、保護者と共に推進していきます。